



# まがき 間垣と共に暮らす

志礼 義光

聞き手・永井雄大 竹中航（石川県立輪島高等学校1年）

## 自己紹介

名前は志礼義光、昭和23年3月18日生まれ、生まれてからずっと上大沢に住んでる。仕事は土建業をしとる。この地区の会長でもあるな。

酒飲んで、タバコ吸うんや健康の源や（笑）。

息子が一人おるけど今は金沢の方に出とっておらん。間垣の時期になったら手伝いには来るけどな。今は女房が家におる。あと、犬のケンタ。家の主や（笑）。ケンタは2匹目で1匹目や死んだときに女房や寂しそうやったし「こりゃいかん」と思って買（こ）うた。年寄りの2人暮らしやから動物おったほうがいいかと思ってな。前は猫もおってんけどな。

## 間垣とは

この上大沢つちゅう所は山と山との間で谷間になっつて

な、風の通り道みたいになっつて。冬の季節になりゃあ風は通常風速20メートルは吹くよ、人間が立って歩かれんほどやぞ。そんな風や2月ほどまで吹く。

間垣は風避け、それ以外には特にないな。ニガ竹つちゅう竹を壁みたいにして地面に刺すもの。間垣は1年中刺してあるな。みんなそれぞれ山を持ってそこに生える9月頃から11月頃の強い竹を切っておいて、それをひと月ほど山にそのままおいとくげん。そしたら葉っぱが枯れて刺しやすくなるんや。別にそのままでもいいんやけど、竹の葉のゴミが酷いんや。3メートル80センチ位の竹をハシゴに登って地面に刺すんや。上から下まで1本や。この作業を10月一杯までには終わらせとく。そうでなけりゃ、風や強くて刺せんくなる。ちなみに、今年は何十年に1回の竹や枯れる年で、竹がなさ過ぎて大変やったわ。竹は前の年とかに、生えとる場所見つけといてそれを当てにして次の年取りに行くんやけど、今年は当てにしとった竹も全部ダメになっつてしまった。そやから、来年と再来年は竹探しに行くこと変えんとな

らん。

竹は、3年ほどしたら虫に食われたり枯れて弱くなったりで変えんならんげ。そしたら、その部分を直さんダメやろ？ そのために、毎年毎年、補修用の竹をとって置いて折れた竹を抜いて差し替えるんや。先週も風速40メートルの風や吹いて大変やった。間垣の下は支えてあるからなんともないんやけど、上は風で折れてしまったやつも何本もある。風で間垣から出るとこのドア開かんかったもん。他にも、間垣自体や倒れてしまったところもあるな。あと、今年の4月かな。ひでえ風で間垣の内側に魚やおったこともあったわ(笑)。

なんで竹を使うかって言われたら木の板とかやったら、完全に風を止めてしまうやろ？ でも、間垣やったら竹と竹のあいだに隙間やできるんや。その隙間が大切で、完全に風を止めるんじゃなくて多少なりの風の通り道を作ってあげて、風通しがいいってことや。完全に止めるのではなく、柔らかくとめるかとか大切ねん。間垣は冬だけじゃなくて夏もあるから夏には風通しやよくないとな。やっぱ、先祖の知恵はすこいわ。それでも、冬は間垣の中と外じゃ全然違う。もし、間垣やなかったら酷(ひで)えことになつとるわ。

間垣は、個人個人でやとって、自分の敷地だけをやとるとる。でも、お互い手伝い合ったりはする。基本的には自分の

敷地だけっちゅうことやな。

間垣はな、前まで木の杭で支えとってん、「つかさ」ちゅうもんねんけど。でも今鉄骨の支えになつとる。なんでかって言ったら、木の杭より鉄骨の方が竹刺す時に楽なんや。でも、竹は潮風に強いけど、鉄骨は弱いさけ、どんだけ持つかわからんのや。

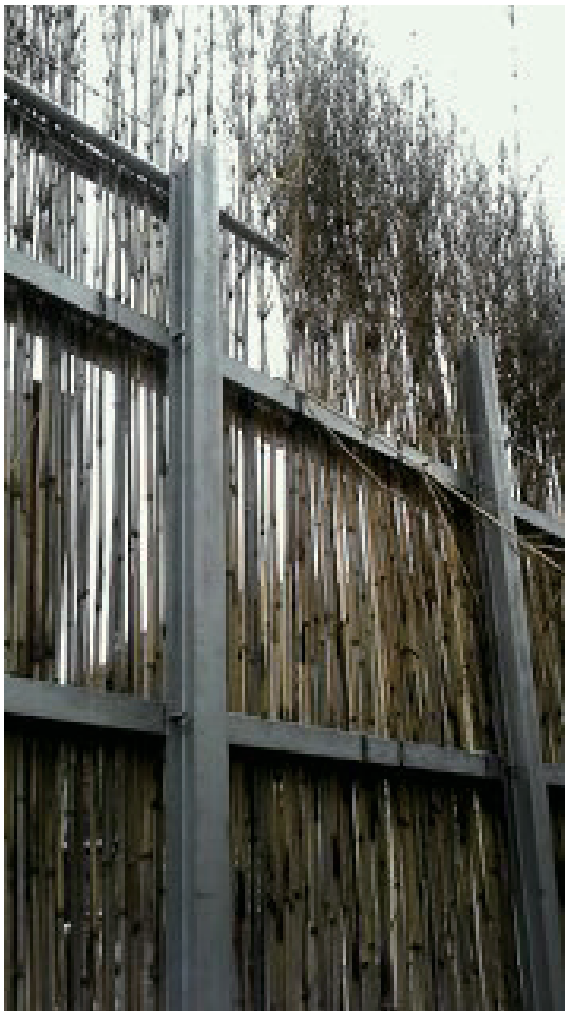
### 受け継がれる間垣と現在の間垣

上大沢は山と山の間にあつて風やひどいんや。そやから、俺や子どもるときから間垣はあつたし、ずっと昔からもあつた。いつからかはわからんけどな。そして間垣は代々受け継いできた。俺の親父の親父のそのまた親父とか、ずっとやってきとる。やから、小さいときから親やしとるの見てきた。「手伝いしろ」とは言われんかったけど、「しんなダメなもん」と思ってしとつたなあ。それで、見よう見真似でしとつた。特に教えてもらったりはしなかったな。そうやって何べもしとるうちにわかるんや。小さい女の子もできることは手伝いしとるわ。俺の息子も間垣の時期になつたら手伝いに来たりはする。順番になつてくんやそういうんは。

そやから、間垣は小さいときから見て育つとるさけ、間垣の作業は「しんならんもん」やと思つてしとるし、大変やとは思わんな。でも、知らん人からしたら大変かも知らんな。そやけど、竹自体はそんな重くないし片手で持てるほどや。それで、刺す竹も150本ほどやしな。どんだけかかっても3日で終わるわ。間垣の仕事や済んだら「あっさりしたあ」っていうんにはなるな。正直、好んでやる仕事ではねえ。けど、したくないとは思わんな。それで、あっさりしたし「ちょっと一杯やるか」ってなるときもある(笑)。ここのみんなは仲良いな。間垣の時期ってみんな一緒やろ？「ほな手伝いに行くわ」とかはないけど見とって「手いりそうやな」って思つたら手伝って刺したり竹を前に出したりはする。お互いな。他にも山で竹切つてくるときも、1人で運んだりするの大変やさけ、2人で行つたりはする。他にも、おすそ分けとかはある。そういう付き合いはできるし、みんな年いつとるし、こうでもせなやつとられんのや。77歳でも間垣やつとる人おるしな。

それでもケガする人はおらん。みんな慣れとるしな。やからボランティアなんかの人の方がよっぽど心配や。ハシゴの上登ったり慣れんやろ？ やから、簡単にボランティアって言う訳にいかん仕事ねん。去年やったかな。金沢の高校生の女の子や何人かボランティアで来てくれて、ハシゴ登って「なーともないか？」って聞いたら「高いところ好きなんで大丈夫です」って言つとつたわ。

でも、今はほんとに若いもんやおらん。昔はここの3地域にそれぞれ小学校あつてんけどな。何年前に廃校



になってしまった。それで3校統合した学校も来年4月で廃校になってしまう。全校生徒12人おったんや。6年生卒業したら、全校で6人になってしまう。俺の子どもの時はこの部落だけで7人おってんけどなあ。ここで若いっちゅうても40過ぎやしな、みんな50代やわ。信じられんやろ？ここはそういうとこなんです。

今年から門前町の総持寺経由で定期観光バスや通るようになって、あんまりおらんけど4、5人乗って来ることもある。自家用車で来る人もおるな。その人らも間垣に興味もって竹の種類とかどこに生えとるか聞いてくるわ。珍しい品物なんやろおな。でも、佐渡にもこれほどの規模じゃねえけどあるって聞いたわ。昔、間垣を調べたいっちゅうて大学生や来ったわ。卒業論文を書きたいって1週間ほどおったな。他にも大学の先生も来たことあったな。あの人達は自分でなんでも調べて行くな。竹や生えとる場所教えたらそこまで見に行くとったわ。

輪島市やこの間垣を文化的景観にしようっちゅうて俺らに話しに来とる。俺は、できることなら、しておいた方がいいんかなと思う。そうしたら間垣を見に来る人も増えるし。でも、文化的景観やっちゅうてこっちの地域のもんや押さえつけられて、県や市から「こんな風にしなさい」とかって言わ

れるんやったら嫌やな。やっぱ、これが一番の問題ねん。今までの生活壊してまでそういうことして欲しくないっちゅう人も中にはおるしな。見に来る人が増えるんは嫌っちゅうわけじゃないんやろうけど、みんな年とっとるし今更気遣うのもなあ。ほら、間垣見るっちゅうことは家屋とか家の裏まで行くかもしれんやろ。そしたら、干し物とかや見えてしまうかもしれんやろ。そういうことに気を遣うのも嫌やろ。

## 暮らしと楽しみ

基本、間垣は秋だけの仕事やさかい、さっきも言ったとおりふだんは土建業をしとる。間垣しとつても飯食っていけなからな。俺は中学校卒業してからこの道に入った。頭のいいやつらは学校進学したけどな。そのころは、大工っちゅうえば職人やってん。今は公務員とかやけど、そんな時は会社なんてなかったしそれしか仕事なかってん。そうやって、この道入ってずっとこの仕事やな。30年ほどやっとるけど仕事に一人前はないしな。そういう気持ちでやっとる。そやけど年には勝たれんわ。酒の量も減ったしな(笑)。

今じゃあ、盆とか正月に休みあるやろ？ そんな時に休んだら体のやり場やなくて、体やいとうなってくる。仕事しとる



方が楽やな。その後の酒もうまいし。真面目な話、健康の源うちゅうたら酒と仕事やな。特に仕事やないとダメや。ほやさけ、酒やあたるまで仕事するわ。あたらんくなったらやめるかな。

最近は、犬のケンタの方が偉くなってしまって、主人や、安い酒飲んどるんに、何百円の物食べとるしな。タバコは吸わんなったなあ。タバコは高いんや。あんなたけえ物吸うんやったら元気でなかならん（笑）。

他には、田んぼもしとる。畑もちょっしだけしとる。田んぼは自分たちや食う分だけしかしとらん。自分たちの分と、ちょっし子供らに取らせようかなあってぐらいやし、そんなデケエ、デケエ農地は持つとらん。そんな田んぼを女房と2人でやとる。昔は「はぎ」にかけてしとったけど、今は全部コンバインでしとる。でも、田んぼしとって食うていかれんやろ？ 田んぼはものすごい経費かかるんや。年いったら体やたいそうなって仕事にならんし機械買わんならんやろ。それでも、機械買うお金はどっから出てくる？ どっか行って稼いでこな。大変ねんぞ。まあ、專業農家じゃないしな。銭のかかる趣味やな。そうでも思わなやとられん。畑にはたまーにジャガイモ作るだけやな。

今は女房と2人で田んぼやら、色々やとるけど、女房も上大沢の人で、幼馴染なんや。「好き」とか「嫌い」じゃねえげんぞ？（笑）「これどうや？」って聞かれたさかい、「ほんならそうするか」って。ただ一緒になった。流れや流れ。向こうはどう思っとるかわからんぞ？ まあ、今まで一緒におるんやさげなんともなかったんやろ（笑）。好きも嫌いもなくなったら喧嘩しかないからな。女には逆らうな。これ、大事やぞ。

## 最後に

間垣をしとって誇りとかは思わん。「しなならんもん」やと思っしてとるけど、この体や動く限り間垣はしていきたいと思うね。

## PROFILE

**志礼 義光** しれい よしみつ

昭和23年3月18日生・64歳・土木建設業

昭和23年に上大沢に生まれてから現在まで住んでいる。中学卒業後すぐに土建業につき現在まで続けている。幼馴染であった奥さんと結婚し現在2人で生活している。

## ● 取材を終えての感想 ●

最初は緊張していて、志礼さんは一体どんな人なのか、気難しくて、話し難い人じゃないだろうか、おおらかで話しやすい人だったらいいな、など不安と期待がありましたが、いざ話してみると、思っていたよりもずっと気さくで喋りやすい人でした。志礼さんの話は、途中途中で冗談を混ぜての話で、間垣についてもあまり予備知識がなかった為、飽きずにずっと聞いている事が出来ました。話の中でも一番興味が沸いたのが、志礼さんの住む上大沢という地はとても風が強いため間垣が必要になると聞いたのですが、1回目と2回目の取材は運悪く？風が強くない日でした。ただ話を聞くと、2回目の取材に行く前の週に、風速40mもの風が吹き、間垣も数本折れたという話を聞いて驚愕しました。この取材を通して、間垣という地域独特の文化と何故それを必要とするのか、過疎化によりその伝統を受け継ぐことが難しくなっていることなどを知り、話を聞いて書き起こす聞き書きという作業や新しい友達と出会ったことなど、僕が普段見ている世界とは違う世界を見ることができて非常に興味深く、そして楽しかったです。（永井雄大）



僕は、このような聞き書き体験や、まとめる作業をしたことがなく、パソコンも使ったことがあまりないのでとても苦労しました。しかし、志礼さんの良い人柄やおもしろさが読んでくださる方々にも伝わるようにと一生懸命がんばりました。

志礼さんは、とても優しく話しやすい方で、最初は不安に思っていた聞き書き体験も楽しく、あっという間に終わってしまいました。そして、過疎地域での少子高齢化により伝統的な行事や間垣を伝承していくことが難しくなっていると寂しそうにお話して下さった志礼さんを見て、若い自分たちに何ができるのかということを考えさせられました。答えはまだ見つけることができていませんが、これからの高校生活で見つけていきたいです。

そして、研修に参加させていただき、志礼さんはもちろん、志礼さんの奥さんや、研修をして下さった方々にも心から感謝しています。このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。（竹中航）

